

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、あなたらしさを尊重しこれまでの暮らしに敬意し、希望ある暮らしを支えるサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や棟内に見やすい場所に掲示しており、スタッフ皆で共有し日々の実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は利用者様、家族も見やすく掲示している。入居時案内、パンフレットにも掲示したり、行事を通して伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の人達と日頃から声を掛け合う事により、近隣の雑貨屋さんなどが、水曜日は衣料、土曜日は雑貨・食料品店出張販売にも来てくれている。最近では近くにある保育園の慰問を受ける等、又町主催の芸能イベントには欠かさず参加している為、今では招待状が届くようになった。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解除の際、不安や疑問点について、懇切丁寧に対応している。入院による退去の際は、退院後の転居先の情報を集め、家族に提供し相談に応じる。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは日頃、十分なコミュニケーションを図り意見や不満、苦情を伝えられる場を設けている。出された苦情に対しては速やかに対応し、質の高いサービス提供ができる様に努力している。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者様の暮らしぶりについては口頭の他、毎月メッセージとして行事報告等を記載した泉の里だよりも送付している。健康状態、受診後の連絡は必ずするが検査結果についての医師の説明は家族も同席してもらえよう声掛けをしている。金銭管理は出納帳、小遣い帳を記入し管理している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内・外の苦情受付窓口について契約時に十分説明している。施設内にも明示している。意見や欲望に関しては運営に反映できる様取り組んでいる。又家族とのコミュニケーションも図りながらの運営にも努めている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会・勉強会で意見交換、情報の共有を行っている他、都度必要があれば話し合いをする機会を設け、意見や提案を反映できる様にしている。とにかく「やってみよう」というスローガンのもと、行動に移す事を心掛けている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様本位の暮らしや時間外のイベント等状況に応じて人員を確保している。勤務・時間調整は都度行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や配置換えの際には詳細な引継ぎを伝える期間を十分に設ける等し、利用者様へのダメージを防ぐ努力をしている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量を経験に応じた研修を受講している。定例会は毎月給料日、勉強会は月末と、日程を決めて行い、介護用の文献、ビデオ、専門書等を設置し誰もが活用できる様にしている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議やグループホーム協会等の研修、地域のグループホームとの交流会に参加しネットワークづくりや、サービスの質の向上に努めている。運営推進会議には同業者の方の参加もあり、情報収集はもとより、質の向上を目指している。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に、運営者、管理者が職員の悩みを聞く体制をとっている。また、年1回2班に分け、1泊の社員慰労会や行事後の打ち上げ等を企画し、より話しやすい場を設けている。行事の際に着用するシンボルマーク入りのTシャツ、ジャンパーを作る等し、一体感を持って仕事出来る取り組みをしている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者、職員と話す機会をつくり、都度利用者に対しての接遇と尊厳を持つよう話している。定例会、カンファレンス、勉強会への参加もしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談事があれば迅速に面談を行い、面接時には相手の話しに傾聴することで相手の良き理解者となり利用者、家族にとって良きパートナーとなり「家族に対するケア」にも心掛け、信頼を築いている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には何を必要としているかを見極め、十分に話し合いをし対応している。必要に応じては関係機関との連携を図っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様の視点に立った支援を行う事で安心し納得した上でサービスを利用している。本人と家族の間で、よい距離が保てるようスタッフが気配りしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者様の喜怒哀楽を共感し理解する様努めている。また、その人らしさを引き出しつつ今までの暮らしに敬意をもち、これから生活していく上で希望をもつていただけるよう理念に基づいてお世話している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行い、相談しながら利用者様を共に支えていく関係を築いている。行事にも招待状を出し家族も一緒に参加していただける様に取り組んでいる。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの利用者様と家族との関係や思いを理解し、敬意している。本人の思いの代弁者になりつつ、家族の心情も考え、ホームに来やすい様に電話やメッセージ等で働きかけている。夏の墓参り支援もその一環である。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで関わってきた人や馴染みの場所等の把握に努め墓参りや地域交流、信仰行事等に出かけられる様支援に努めている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自由にホールを活用し、レクリエーションを楽しみながら利用者様同士がコミュニケーションを図れるよう支援させて頂いている。また一人一人を理解しつつ、得意分野を活かした仕事の役割をもたせ、個々の存在をアピールできる様心掛けている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等により退居になった場合でも次の受け入れ先が決まるまでの相談を受入れている。また、入院先を訪問してみるなどの信頼関係を保っている為、家族より感謝される事が多い。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや希望、意向を伝える事ができる様、各担当者が寄り添い、時には家族に協力を要請したり、時にはスタッフが家族になったり、本人の思いや意向を叶えられる様努力している。思いを伝える事が困難な場合にでもアセスメント、カンファレンスを行い、思いや意向に添える様検討している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と回想法に準じた会話で過去を模索しながら、利用者様のプライバシーに配慮し、家族や親類、友人からの情報収集を行い把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしい生活リズムを理解し午後はラジオ体操・レクリエーション等の参加を通じて観察し、わかりやすく記録に残している。利用者様の出来る事、わかる力を日頃のコミュニケーションを通じて把握している。「気づき」を大切にしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度の見直しは必須であり、都度ミニカンファレンスを開き情報交換している。利用者様の意見を可能な限り聞くように努めている。また職員間での十分な話し合いを基に、今必要な事、今困っている事をいち早くとらえ、その人らしい暮らしが出来る様に作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回アセスメントを取り見直している。またサービス途中であっても身体状況の変化等あった場合は、都度アセスメントを行い、計画を見直している。必要に応じては家族とも話し合いをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしや身体状況、いつもと違う等の気づきを申し送りノート、業務日誌、カルテ等、詳しく記入し情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かし、結果もカンファレンス等で話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人又は家族の状況、要望に応じて受診や外出の移送支援を柔軟に対応している。墓参り支援や、併設しているデイサービスの慰問等、利用者様の欠かせない楽しみの一つとなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方のボランティアの存在を把握し協力が得られる。又消防機関等に関しては夜間緊急連絡網に地域消防隊員の名前が連なっているように協力要請はできており町民際などの見学、近隣保育所の慰問と協力を得ながら支援している。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要とする場合には他事業者との話し合いや、利用する為の支援を行うが現在はありません。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後、制度を利用するにあたっては地域包括支援センターや関係機関と連携し努めていきたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様、家族に嗜好を聞き、メニューに取り入れたりおやつを提供している。準備や片付けも力量に合わせて一緒に行っている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自己管理出来る方は個人で冷蔵庫を置いたりしている。飲み物も選択し好みの者を飲めるよう支援している。月に1回程度の外出時のメニュー選びも楽しみの一つである。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンは熟知しており、下剤服用の時間の調整や利用者様の行動の変化の観察、トイレ誘導にて失敗を減らせる様に努めている。又、乳製品の摂取などで自然排便出来る様、支援している。オムツ使用に関しても継続、使用方法は常に検討している。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	施設併設の温泉での入浴を皆さん楽しみにしている。健康状態を把握し利用者様の希望に合わせリフレッシュ出来る様努めている。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝つきのよくない方には、マッサージや足欲等行い安眠して頂ける様努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お盆拭き、洗濯たたみ、新聞折り等利用者様に合った役割を持つことで張り合いがもてる様支援を行っている。編み物が得意な方、お買物を楽しみにされている利用者様と個々に合わせた気晴らしが出来るように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は任せている。出来ない方もお小遣いとお小遣い帳と一緒に管理し、スタッフと共に買物をしてお会計までかかわる様支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて買物に出かけている。天気の良い時は、ドライブやピクニック、畑作業と戸外に出るようこちらから働きかけている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	事情により家族が連れて行けない場合でも、スタッフの付き添いにて墓参りをしている。状態により遠出が困難な方でも生まれ育った地元巡り等も行っている。又、あやめ祭りや弘前でのサクランボ狩り体験等にも行ったり桜祭りでは家族も参加してくれている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けれる様支援している。施設内の生活状況を泉の里だよりとして毎月家族に郵送している。年賀状や手紙で友人、親戚の方とやり取りしている方もいる。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、いつでも居室でゆっくりとすごしていただける様にしている。必要に応じては家族室も利用していただき泊まれる様にもなっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会等で学び身体拘束としないケアに取り組んでいる。実施したことは無いがやむを得ず、行動制限を必要とされた場合に関しては、家族に十分に説明し理解していただき同意書をかかわしているが、基本的に身体拘束は行わないものとしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自由に入出入りできる様になっているが引き戸に風鈴を下げ、音で察知できる様にしている。外出は本人の希望にて行っているが付き添いをしている。無断外出があった時に備え、当施設の役割を行事の参加を通して地域の方々に理解していただき協力を得ている。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室ドアを開けていてもプライバシーが保持できる様にのれんを下げている。昼夜通して様子を把握し安全に生活できる様、常に物音にも気を配り迅速に対応できる様にしているが、状態に応じて開閉は自由としている。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬の管理はスタッフが行っている。ハサミや裁縫に使う針等、管理できる人に関しては保管場所を把握している。衛生用品等も職員が介助に使用した後は速やかに片付けている。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年1回、救命講習を消防署にて受けている。1人ひとりの状態を注意深く観察し対応している。事故が発生した場合にはヒヤリハット・事故報告書を作成し再発防止について話し合いをしている。報告書は常時確認できる様に詰め所の棚に保管している。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアル、夜間連絡網を作成しており全員が周知している。運営者、管理者、職員は普通救命講習Ⅱを受講している。施設内にはAEDを設置し定期的に使用方法を確認している。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている（夜間想定有り）地域住民の協力員が有り協力を得ている。毎月1回夜間連絡網の実施をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	同意書という形で家族の理解を得ているが、カンファレンスや日常的に職員間で話題に出し、1人ひとりのリスクや対応策を話しあい、家族へ伝えている。利用者様の状況変化に応じて適宜の見直しを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「気付き」を大切にし、少しの変化も見逃さない様注意している。変化があった時はすぐに看護師に報告する事で早期対応できている。速やかに専門医に受診もしている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を利用者様の生活記録ファイルに挟んでおり、いつでも確認できる様にしている。薬の変更、追加があった時には、申し送りノート、受診ノートに記入し、口頭での申し送りも行い、周知徹底している。服薬は都度手渡し服用確認している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄パターンやチェックを行い管理し把握している。便秘症の方には乳製品摂取や腹部マッサージ等を行い、自然排泄を促している。必要に応じては、医師に相談し、なるべく負担にならない様に下剤服用の量、時間を調整している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、義歯洗浄、歯磨きを行い、ケアしている。夕食後は洗浄剤に浸し汚れや臭いの原因となるものを除去し清潔を保持している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立づくりをし個々の食事、水分摂取量を記録に残し栄養状態の把握に努めている。栄養士に相談できる体制になっており助言を求めている。必要に応じて栄養補助食品を取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防、対応マニュアルが目につきやすい所に掲示してある。マニュアル等に基づいて勉強会等で学習する機会も設け、常に消毒を徹底している。インフルエンザの予防接種も受けている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮で安全な物を使用し管理している。調理用具も毎日消毒し衛生管理に努めている。又冷蔵庫もオスバン消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の周りには様々な植物が植えられており、季節の花を楽しんでいただけるよう様工夫している。玄関も木造でゆったりとした木の香りを楽しんでいただけ開放感のあるつくりになっており、安心して出入りできるようになっている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間を広々ととっており、ゆったりとした建物になっている。季節ごとに装飾を変え季節感が味わえる様な工夫をしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはダイニングテーブルの他、ソファ、長椅子等も設置しており、それぞれ好みの場所にて思い思いに過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納できるスペースは十分にとっており、利用者様が安心して居心地よく過ごしていただける様、タンスや食器等使い慣れた物を使用し、十分に話し合いをしながら家具の配置や好みの物を飾っている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホール内に、温、湿度計を設置している。換気に努め、臭いやだよみがないように気配りしている。水カーテン、加湿器の使用、光触媒による消毒も行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、廊下や棟内には全て手摺りを設置している。身体拘束の変化に応じて、トイレのドアを外し、カーテンにしたり、本人の要望に合わせ都度追加で手摺りを設置している。家具の配置も個々に合わせ使いやすい様配慮している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	目印や表札を掛け、わかりやすい様にしている。失敗や混乱がある時は都度話し合いをする。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広いホールでのレクリエーションや機能訓練の実施。お風呂は温泉であり、とても好評で利用者様には喜んで頂けている。庭には野菜畑があり、楽しんで活動できるようにしている。気候のよい時期には庭の散歩や東屋でのおやつ会をしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・その人らしさを念頭に利用者様それぞれの個性に合わせ様々なイベントや行事に参加して頂いています。夏祭りでは地域の方々の協力が得られており、グループホームの行事の枠を超え、地域行事として根付きつつあります。
- ・スタッフは日々笑顔と声掛けに気をつけ、利用者様との信頼関係が築ける様努力しています。
- ・食事は基本的に冷凍食品を使用していないが特徴です。